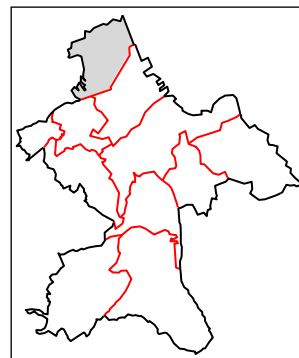


第 12 次八戸市農業計画に関する地区計画案について

1. 市川地区

(1) 関係集落名

轟木、和野、高屋敷、赤畑尻引、桔梗野
向谷地、浜市川、橋向、古場蔵



(2) 農業構造

①農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成 22 年	396	271	125
平成 27 年	304	203	101
令和 2 年	238	150	88

※1 販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満で、かつ、調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円未満の農家。

◇農林業センサスより

②耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成 22 年	744	584	160
平成 27 年	673	525	148
令和 2 年	658	512	146

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	275	146	82	22	20	5
平成 27 年	207	105	62	21	11	8
令和 2 年	152	79	41	15	8	9

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営	
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他		
平成 22 年	248	175	26	1	1	1	6	38
平成 27 年	182	126	30	-	1	3	1	21
令和 2 年	148	103	18	-	1	2	-	24

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上	
	平成 22 年	248	131	82	11	15
平成 27 年	182	84	58	16	14	10
令和 2 年	148	42	71	8	17	10

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数		農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	248	115	95	14	15
平成 27 年	182	80	83	3	10
令和 2 年	148	36	74	8	29

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
1	2	6
-	1	5
-	-	1

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	60	59	53	52	13	7
平成 27 年	51	110	44	107	11	3
令和 2 年	39	164	32	160	12	4

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	37	15	16	8	23	7
平成 27 年	58	34	47	31	14	3
令和 2 年	21	10	18	8	4	2

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の北部に位置し、奥入瀬川及び五戸川流域に水田地帯が開けています。田が耕地面積の8割を占めており、夏期は太平洋から吹き付けるやませ(偏東風)の影響を受けやすい地域です。

水田転作によるいちご栽培や大豆栽培が行われています。

(4) 主に生産されている農産物

水稲、小麦、大豆、いちご

(5) 振興方向

水稲については、国の制度等を利用しながら、基盤整備を進め、基幹作物として生産を継続するとともに、転作田を有効活用した施設いちご、並びに、集団的に生産されている小麦や大豆を中心とする複合経営の確立を促進します。

また、小麦や大豆生産のさらなる集団化を促進するため、農地の流動化を図ります。

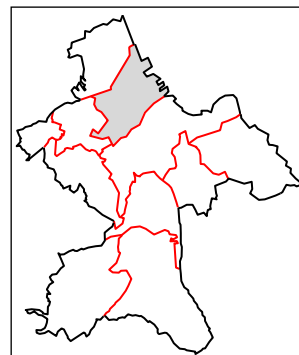
(6) 振興する農産物

水稲、小麦、大豆、いちご

2. 下長地区

(1) 関係集落名

長苗代、石堂、河原木、高館、小田、
日計、八太郎



(2) 農業構造

①農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	305	226	79
平成27年	260	182	78
令和2年	210	133	77

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

②耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成22年	441	336	105
平成27年	399	302	97
令和2年	390	295	95

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	226	139	66	12	7	2
平成 27 年	185	132	38	8	4	3
令和 2 年	138	100	24	7	3	4

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他	
平成 22 年	190	136	9	-	1	-	44
平成 27 年	163	120	9	1	-	1	31
令和 2 年	129	95	13	1	-	1	17

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上
	平成 22 年	190	83	94	5
平成 27 年	163	115	33	9	2
令和 2 年	129	61	52	8	4

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数		農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	190	101	38	23	5
平成 27 年	163	77	34	24	13
令和 2 年	129	39	43	19	9

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
1	17	5
3	6	6
1	10	8

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	38	31	30	23	14	8
平成 27 年	31	67	25	27	11	40
令和 2 年	18	53	16	35	8	18

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	41	24	28	15	18	9
平成 27 年	35	32	19	12	22	20
令和 2 年	23	20	18	14	9	6

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の北東部に位置し、馬淵川の北側に開けた水田地帯であり、耕地面積の8割が田となっています。

市街地に隣接し、混住化が進んでいます。

主要作物は水稻の他、トマト等の施設野菜、ねぎ等の露地野菜となっています。

(4) 主に生産されている農産物

水稻、トマト、ねぎ

(5) 振興方向

都市的土地利用との調整を長期的かつ計画的に図り、水稻栽培を基幹としながら、施設トマト栽培と露地ねぎ栽培を促進します。

水稻については、国の制度等を利用しながら、基盤整備を進め、農地の集約化を図ります。

また、都市化の進んでいる集落については、施設栽培による多品目生産を促進し、市民へ「新鮮」で「安全」な食料の安定供給を図ります。

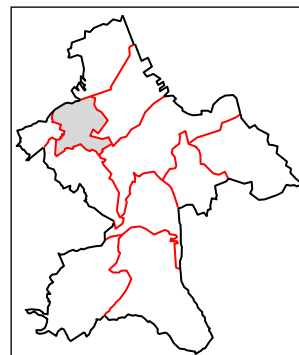
(6) 振興する農産物

水稻、トマト、ねぎ

3. 上長地区

(1) 関係集落名

正法寺、三條目、笹ノ沢、尻内、大仏



(2) 農業構造

① 農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	388	202	186
平成27年	299	144	155
令和2年	226	112	114

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

② 耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成22年	561	329	232
平成27年	510	296	214
令和2年	499	289	210

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	203	145	38	9	6	5
平成 27 年	146	102	26	7	3	8
令和 2 年	113	82	22	1	1	7

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営	
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他		
平成 22 年	165	133	6	1	-	1	-	24
平成 27 年	120	96	7	-	-	2	-	15
令和 2 年	89	71	8	-	-	1	1	8

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上	
	平成 22 年	165	100	55	7	2
平成 27 年	120	82	31	3	-	4
令和 2 年	89	42	36	6	2	3

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数		農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	165	73	41	3	24
平成 27 年	120	44	31	15	18
令和 2 年	89	17	44	5	11

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
-	11	13
1	7	4
1	7	4

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	36	73	30	25	11	48
平成 27 年	33	81	29	36	12	45
令和 2 年	22	55	12	13	12	42

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	46	25	16	5	36	20
平成 27 年	32	18	12	3	22	15
令和 2 年	23	15	12	4	13	11

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の西部に位置し、馬淵川の北側に開けた水田地帯であり、耕地面積の6割が田です。

丘陵地では農地が造成されており、露地野菜栽培が行われています。

東北新幹線や東北縦貫自動車道の北方延伸、区画整理事業等により、都市的土地利用が漸次増加しています。

(4) 主に生産されている農産物

水稻、ごぼう、ながいも、にんにく、ピーマン

(5) 振興方向

水稻については、基幹作物として、国の制度等を利用しながら、基盤整備を進め、主食用及び飼料用の生産を継続するとともに、ごぼう、ながいも、にんにく等の露地野菜生産を促進します。

また、高齢化等に伴う労働体制の変化に対応し、重量野菜から軽量野菜のピーマンへの移行を促進します。

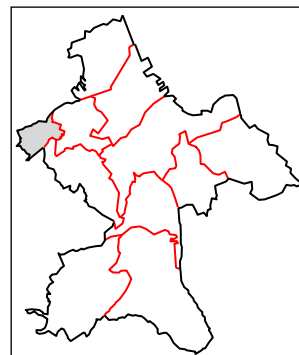
(6) 振興する農産物

水稻、ごぼう、ながいも、にんにく、ピーマン

4. 豊崎地区

(1) 関係集落名

滝谷、上七崎、下七崎、永福寺



(2) 農業構造

① 農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	229	129	100
平成27年	197	104	93
令和2年	156	68	88

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

② 耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成22年	337	175	162
平成27年	306	157	149
令和2年	299	153	146

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	129	84	26	11	6	2
平成 27 年	104	59	25	10	7	3
令和 2 年	69	36	17	10	3	3

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営	
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他		
平成 22 年	105	70	13	-	-	3	-	19
平成 27 年	83	56	13	-	-	4	-	10
令和 2 年	62	38	11	-	-	1	-	12

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上	
	平成 22 年	105	58	37	5	2
平成 27 年	83	40	32	2	6	3
令和 2 年	62	21	29	4	6	2

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者	
平成 22 年	105	41	13	4	37
平成 27 年	83	32	14	3	26
令和 2 年	62	17	24	5	12

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
-	9	1
-	5	3
-	4	-

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	23	22	18	11	6	11
平成 27 年	27	26	22	13	7	13
令和 2 年	14	25	11	15	6	10

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	22	8	9	3	15	5
平成 27 年	17	7	9	3	11	4
令和 2 年	10	5	4	1	7	4

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の西部に位置し、浅水川に沿って水田が開けており、耕地面積の割合は田5割、畑5割となっています。

ピーマン、ごぼう、ながいも、にんにくを中心とした露地野菜栽培が行われています。

(4) 主に生産されている農産物

水稻、ピーマン、ごぼう、ながいも、にんにく

(5) 振興方向

水稻については、国の制度等を利用しながら、基盤整備を進め、生産を継続するとともに、現在、生産団地が形成されているピーマン、ごぼう、ながいも及びにんにくについては、生産技術の向上等により生産量の拡大を図ります。

また、高齢化に伴う労働体制の変化に対応し、重量野菜からピーマン等への移行を促進することにより、地域の実情に応じた安定的な営農体制の確立を図ります。

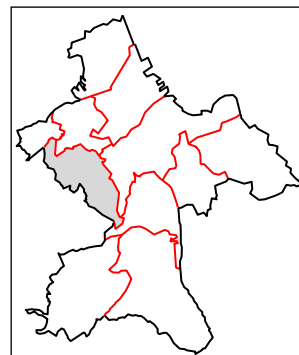
(6) 振興する農産物

水稻、ピーマン、ごぼう、ながいも、にんにく

5. 館地区

(1) 関係集落名

八幡、坂牛、通清水、一日市、烏沢
鷹ノ巣、高岩



(2) 農業構造

①農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	304	165	139
平成27年	258	129	129
令和2年	216	106	110

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

②耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成22年	352	157	195
平成27年	321	141	180
令和2年	315	138	177

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	169	102	34	23	5	5
平成 27 年	130	75	39	10	3	3
令和 2 年	108	69	23	8	4	4

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営	
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他		
平成 22 年	149	55	3	18	1	3	2	67
平成 27 年	110	36	3	30	1	3	1	36
令和 2 年	92	30	4	23	1	5	-	29

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上	
	平成 22 年	149	71	63	4	7
平成 27 年	110	56	38	6	4	6
令和 2 年	92	32	43	6	3	8

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数		農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	149	59	13	46	15
平成 27 年	110	39	17	37	8
令和 2 年	92	28	13	32	10

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
-	12	4
2	4	3
1	4	4

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	27	27	24	25	9	2
平成 27 年	25	30	22	28	7	2
令和 2 年	18	51	14	46	8	5

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	31	12	16	5	19	7
平成 27 年	25	13	12	5	17	8
令和 2 年	17	10	11	6	8	4

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の南西部に位置し、耕地面積の割合は田4割、畑6割となっています。
りんごの栽培が盛んであり、生産団地を形成している他、ミニトマトの施設野菜栽培も行われています。

東北新幹線や東北縦貫自動車道の北方延伸等により、都市的土地利用が増加しています。

(4) 主に生産されている農産物

水稻、ミニトマト、スナップエンドウ、りんご、もも

(5) 振興方向

水稻については、基幹作物として、国の制度を利用しながら飼料用及び主食用の生産を継続するとともに、現在、生産団地が形成されている施設ミニトマトの生産量の拡大を図ります。

りんごについては、紋羽病対策として、もも等への改植を促進し、複合的な果樹生産体制の確立を図ります。

また、施設スナップエンドウの促成栽培に取り組むとともに、引き続き露地ねぎ栽培に取り組むことにより経営の充実を図ります。

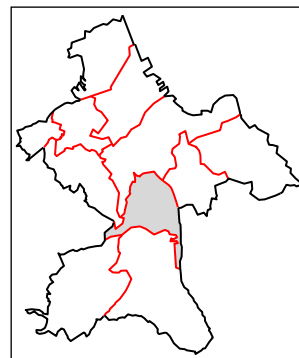
(6) 振興する農産物

水稻、ミニトマト、スナップエンドウ、ねぎ、りんご、もも

6. 是川地区

(1) 関係集落名

田中、風張、志民、妻ノ神、岩ノ沢、水野、西山、母袋子、差波、鴨平、番屋、天狗沢



(2) 農業構造

① 農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	151	74	77
平成27年	167	87	80
令和2年	144	61	83

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

② 耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成22年	412	116	296
平成27年	377	104	273
令和2年	370	102	268

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	74	39	20	6	5	4
平成 27 年	88	37	24	7	11	9
令和 2 年	61	23	20	8	7	3

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営	
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他		
平成 22 年	59	11	11	1	2	1	2	31
平成 27 年	72	21	26	2	2	2	3	16
令和 2 年	55	10	23	2	1	1	4	14

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上	
	平成 22 年	59	19	29	4	4
平成 27 年	72	23	23	8	10	8
令和 2 年	55	10	20	8	9	8

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数		農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	59	13	4	15	6
平成 27 年	72	22	2	18	8
令和 2 年	55	16	4	15	7

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
-	16	5
5	11	6
2	8	3

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	23	27	18	9	14	18
平成 27 年	37	58	18	14	30	44
令和 2 年	23	41	11	17	21	24

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	12	5	9	2	7	3
平成 27 年	24	10	11	3	15	7
令和 2 年	16	8	8	2	10	6

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の南部に位置し、河川に沿って水田地帯が開けていますが、起伏が多く、耕地面積の7割が畑となっています。

ねぎ、ながいもを基幹作物とした露地野菜栽培、トマト等の施設野菜栽培が行われています。

(4) 主に生産されている農産物

水稻、ねぎ、ながいも、トマト、トルコギキョウ

(5) 振興方向

ながいも、ねぎ等の露地野菜栽培を基幹としながら、施設の導入による施設野菜・花き栽培による複合経営を促進します。

水稻については、国の制度を利用しながら生産を継続します。

また、経営規模の拡大を図る農業者については、八戸平原地区の利用を促し、経営の安定と発展を図ります。

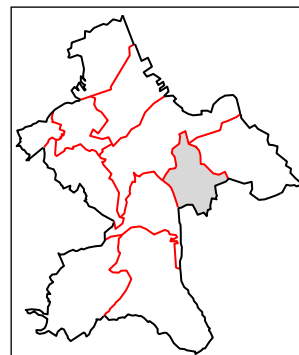
(6) 振興する農産物

水稻、ねぎ、ながいも、トマト、トルコギキョウ

7. 大館地区

(1) 関係集落名

新井田、塩入、妙、大開、松館、十日市



(2) 農業構造

① 農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	195	71	124
平成27年	181	67	114
令和2年	142	39	103

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

② 耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成22年	307	76	231
平成27年	281	68	213
令和2年	275	66	209

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	73	57	9	2	-	5
平成 27 年	67	50	9	3	-	5
令和 2 年	42	34	1	3	-	4

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営	
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他		
平成 22 年	45	29	-	2	2	6	2	4
平成 27 年	37	25	1	4	1	4	-	2
令和 2 年	19	9	4	2	1	2	-	1

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上	
	平成 22 年	45	28	8	1	4
平成 27 年	37	27	3	-	4	3
令和 2 年	19	9	6	-	3	1

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数		農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	45	5	18	3	11
平成 27 年	37	5	16	2	10
令和 2 年	19	3	6	3	2

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
2	5	1
-	2	2
-	4	1

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	9	34	5	9	4	25
平成 27 年	9	35	6	11	4	24
令和 2 年	6	16	4	12	2	4

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	21	21	14	6	13	15
平成 27 年	24	27	12	4	16	23
令和 2 年	8	4	6	2	3	2

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の南東部に位置し、河川に沿って水田が開けていますが、耕地面積の8割は畑となっています。

水稻、露地野菜栽培を基幹とした経営が多いものの、施設花き栽培及び畜産等多様な農業生産が展開されています。

しかしながら、市街地に隣接し、混住化が進んでいます。

(4) 主に生産されている農畜産物

水稻、花き、乳牛

(5) 振興方向

都市的土地利用との調整を長期的かつ計画的に図り、水稻については、国の制度等を利用しながら、基盤整備を進め、主食用及び加工用として生産を継続するとともに、現在、定着している花き、乳牛等の農畜産物については、省力・低コスト生産を促進します。

また、水稻に関する集落営農組織が設立されており、さらなる生産面積の拡大を目指します。

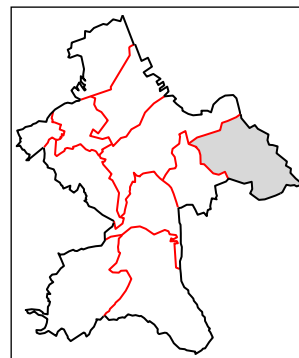
(6) 振興する農畜産物

水稻、花き、乳牛

8. 南浜・美保野地区

(1) 関係集落名

大久保、町畑、美保野、金吹沢、白浜、種差、大久喜、金浜等



(2) 農業構造

①農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	198	57	141
平成27年	169	41	128
令和2年	127	31	96

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

②耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成22年	184	49	135
平成27年	169	44	125
令和2年	166	43	123

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	70	42	19	4	4	1
平成 27 年	52	29	12	4	3	4
令和 2 年	39	22	9	2	3	3

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営	
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他		
平成 22 年	37	12	8	-	7	9	-	7
平成 27 年	38	12	8	-	2	8	1	7
令和 2 年	28	8	6	1	1	6	4	2

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上	
	平成 22 年	37	12	10	4	3
平成 27 年	38	17	7	2	2	10
令和 2 年	28	7	6	-	6	9

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数		農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	37	9	8	9	1
平成 27 年	38	8	8	5	3
令和 2 年	28	1	8	5	7

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
2	6	2
2	5	7
2	3	2

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	6	3	4	2	3	1
平成 27 年	9	14	4	1	6	13
令和 2 年	10	17	2	1	8	16

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	19	16	6	2	13	14
平成 27 年	8	7	3	1	6	6
令和 2 年	6	6	2	1	4	5

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の南東部に位置し、耕地面積の割合は田3割、畑7割となっています。
施設花き（花壇苗等）栽培の専業経営や水稻、露地野菜栽培の複合経営の他、大規模養豚・養鶏の産地が形成されており、県内でも有数の飼養地帯となっています。

また、南浜地区には、国営八戸平原総合農地開発事業によって農地が造成されており、露地野菜栽培が行われています。

(4) 主に生産されている農畜産物

ごぼう、じゃがいも、スイートコーン、にんじん、にんにく、ながいも、ねぎ、花き、養豚、養鶏

(5) 振興方向

既存の生産品目については、生産技術の向上に努めるとともに、生産条件の整備を図り、高生産・高収益農業の確立を促進します。

また、アスパラガスの生産について検討し、農業経営の安定に寄与すると判断された場合は、生産を促進し、経営品目の充実を図ります。

農地造成地域については、農地の流動化を促進し、経営規模の拡大による生産性の向上により、農業経営の安定を図ります。

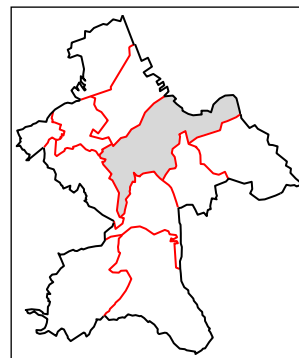
(6) 振興する農畜産物

アスパラガス、ごぼう、じゃがいも、スイートコーン、にんじん、にんにく、ながいも、ねぎ、花き、養豚、養鶏

9. 旧市内

(1) 関係集落名

中居林、板橋、糠塚、売市、根城、田面木、笹子等



(2) 農業構造

①農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	260	97	163
平成27年	208	68	140
令和2年	163	59	104

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

②耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成22年	204	114	90
平成27年	186	103	83
令和2年	182	100	82

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	102	77	19	6	-	-
平成 27 年	70	53	11	5	-	1
令和 2 年	48	31	10	4	1	2

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営	
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他		
平成 22 年	67	40	10	1	1	2	2	11
平成 27 年	53	32	7	1	2	1	2	8
令和 2 年	36	23	4	2	1	-	1	5

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上	
	平成 22 年	67	41	19	1	4
平成 27 年	53	34	13	2	3	1
令和 2 年	36	12	17	4	2	1

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数		農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	67	13	18	9	8
平成 27 年	53	5	7	8	18
令和 2 年	36	2	10	4	8

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
-	15	4
1	10	4
1	10	1

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	11	4	9	4	2	0
平成 27 年	8	4	5	3	4	1
令和 2 年	10	18	7	16	6	2

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	11	5	2	0	9	5
平成 27 年	11	7	4	2	8	5
令和 2 年	5	4	2	3	3	1

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の中心部に位置し、耕地面積の割合は田6割、畑4割となっていますが、大部分が市街化区域内にあり、農業への依存度は低く、露地野菜・花き栽培が点在して行われています。

(4) 主に生産されている農産物

野菜、花き

(5) 振興方向

都市的土地利用との調整を長期的かつ計画的に図りながら、都市緑化空間や防災空間としての役割も踏まえ、現在、定着している作物の省力・低コスト生産を促進します。

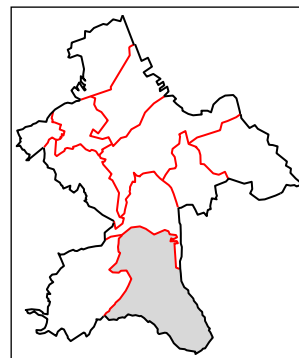
(6) 振興する農産物

野菜、花き

10. 島守地区

(1) 関係集落名

中谷地、古里、姉市沢、番屋、砂籠、沢田、石橋、巻、江花沢、馬場、高山、門前、荒谷、相畑、頃巻沢、七枚田、不習、十文字



(2) 農業構造

①農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	384	310	74
平成27年	351	231	120
令和2年	312	182	130

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

②耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成22年	811	181	630
平成27年	744	163	581
令和2年	730	159	571

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	314	159	98	30	16	11
平成 27 年	233	121	67	18	21	6
令和 2 年	187	102	48	10	21	6

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営	
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他		
平成 22 年	254	31	22	33	1	11	106	50
平成 27 年	207	35	12	27	-	11	69	53
令和 2 年	161	20	10	23	-	7	58	43

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上	
	平成 22 年	254	63	127	34	23
平成 27 年	207	58	99	22	21	7
令和 2 年	161	40	71	22	21	7

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数		農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	254	88	108	6	13
平成 27 年	207	68	24	8	6
令和 2 年	161	54	16	4	14

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
1	20	18
70	20	11
52	20	1

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	87	64	29	14	74	50
平成 27 年	71	63	30	21	57	42
令和 2 年	54	106	32	49	39	57

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	76	41	30	11	60	30
平成 27 年	66	36	24	6	48	30
令和 2 年	49	30	20	8	32	22

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の南部、南郷地区の東部に位置し、新井田川水系流域に耕地が広がっており、耕地面積の8割が畑となっています。

果樹と葉たばこが栽培されており、生産団地を形成しています。

(4) 主に生産されている農畜産物

水稻、りんご、そば、葉たばこ、肉用牛、ワイン用ぶどう

(5) 振興方向

既存産地の生産条件の整備を図り、高生産・高収益農業の確立を促進します。

また、ブルーベリー等の観光農園により、他地域の住民との交流を推進し、地域振興を図ります。

加えて、そばの生産については、市の制度を利用しながら継続し、地域農地の保全を促すとともに、葉たばこの生産については、作付けを維持しながら収穫量の確保に努めます。

平成26年度から開始したワイン用ぶどうの生産については、生産技術の向上に努め、生産量の確保を図ります。

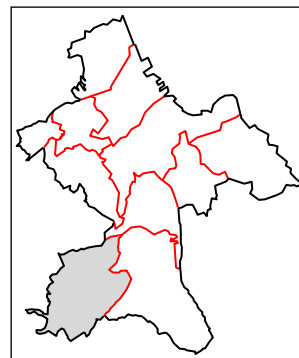
(6) 振興する農畜産物

水稻、りんご、肉用牛、ワイン用ぶどう

11. 中沢地区

(1) 関係集落名

市野沢、馬場瀬、大渡、田ノ沢、泥障作、
下洗、中野、大蕨、諏訪、半堂、大平、
鶏島、人形森、鳩田、大森、泥ノ木、狐
久保、新田



(2) 農業構造

① 農家

農家数の推移

(単位：戸)

	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	377	274	103
平成27年	342	221	121
令和2年	300	187	113

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

② 耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

	耕地面積	田	畑
平成22年	1,027	163	864
平成27年	944	147	797
令和2年	926	143	783

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

	経営体数	1ha 未満	1ha-2ha	2ha-3ha	3ha-5ha	5ha 以上
平成 22 年	280	99	106	35	30	10
平成 27 年	226	75	74	36	30	11
令和 2 年	194	78	63	32	16	5

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	単一経営						複合経営	
	稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他		
平成 22 年	254	22	20	41	1	5	107	58
平成 27 年	208	24	16	40	1	7	83	37
令和 2 年	175	23	13	34	1	5	69	30

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移 (単位：上段 万円、下段 経営体数)

販売のあった 経営体数	50 未満	50 以上 300 未満	300 以上 500 未満	500 以上 1,000 未満	1,000 以上	
	平成 22 年	254	69	95	48	31
平成 27 年	208	51	81	34	30	12
令和 2 年	175	32	62	33	29	19

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

販売のあった 経営体数	農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者	
平成 22 年	254	40	119	41	17
平成 27 年	208	32	23	34	17
令和 2 年	175	18	12	32	16

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
7	20	10
87	14	1
75	17	5

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	68	71	24	11	52	60
平成 27 年	51	70	15	9	46	61
令和 2 年	37	69	15	11	29	58

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：ha)

	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	63	53	11	4	60	49
平成 27 年	53	39	11	4	49	35
令和 2 年	45	38	5	3	41	35

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の南部、南郷地区の西部に位置し、耕地面積の8割が畑となつていま
す。

果樹と葉たばこが栽培されており、生産団地を形成しています。

(4) 主に生産されている農産物

ながいも、葉たばこ、そば、ブルーベリー、ワイン用ぶどう

(5) 振興方向

既存産地の生産条件の整備を図り、高生産・高収益農業の確立を促進し
ます。

また、ブルーベリー等の観光農園やグリーン・ツーリズムにより、他地
域の住民との交流を推進し、地域振興を図ります。

加えて、そばの生産については、市の制度を利用しながら継続し、地域
農地の保全を促すとともに、葉たばこの生産については、作付けを維持し
ながら収穫量の確保に努めます。

平成26年度から開始したワイン用ぶどうの生産については、生産技術の
向上に努め、生産量の確保を図ります。

(6) 振興する農産物

ながいも、ブルーベリー、ワイン用ぶどう